

宇奈月温泉商店街

(宇奈月温泉自治振興会)

富山県黒部市

！取組のポイント

「世界有数の山岳温泉エコリゾート」というコンセプトを打ち出し、様々な取組を実施、宿泊者数の増加に成功。

取組の背景

トロッコ電車の利用者数が横ばい

近年の宇奈月温泉商店街の宿泊客の50%前後は黒部峡谷鉄道のトロッコ電車の乗車を目的とした旅行客であり、トロッコ電車が運転されていない12月から4月までの約5か月間は宿泊客数が激減する。

また、2014年までのトロッコ電車の利用者数は過去数年間大きな変化はなく、宇奈月温泉商店街の宿泊客数の増加も期待できないと想定されていた。

さらに、旅行スタイルが団体客から個人客へシフトする中、個人客はまち全体の魅力を求めて旅行に訪れる傾向が強いため、トロッコ電車の運休期間のみでなく、運行期間においても、宇奈月温泉商店街自体の魅力・誘客力を高め、商店街内に宿泊することを主目的とする観光客を増加させる必要があった。

宇奈月温泉駅前と宇奈月100年会女子部



取組の内容

温泉街の活性化に向け、委員会を結成

2009年、宇奈月温泉商店街の事業者メンバーが中心となって、教育機関、行政などから構成される「でんき宇奈月プロジェクト実行委員会」を設立し、小水力発電などの自然エネルギーを活用した公共交通システム形成に向けた活動が開始された。

このような中、宇奈月温泉商店街としての地域ブランドを創出すべく、自治振興会の「宇奈月温泉まちづくり委員会」などで議論を重ね、「世界有数の山岳温泉エコリゾート」という温泉街のコンセプトを打ち出した。この「山岳温泉エコリゾート」とは、温泉のみでなく山岳リゾート(自然)を地域資源として捉え、「環境」、「健康」、「絆」の3つの視点から様々な取組を実施することにより温泉街の活性化を目指すものである。

コンセプトを実践に移すべく、2010年度及び2011年度は、「地域の魅力でおもてなし事業(地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト)」を活用し、商店街の若手が中心となった、環境に配慮した電気バス(EV)の運行実験や自然を背景とした体験型イベントなどを実施した。

また、40代以下の若手経営者が立ち上がり、2015年1月に、自治振興会の下部組織として「宇奈月100年会」が設立された。当会では、「山岳温泉エコリゾート」のコンセプトを踏襲しつつ、これまでの検討で不足していた富山県民、とりわけ富山県に住む若い女子の視点を踏まえた取組を実施している。

温泉街を走る電気バス(EV)「EMU(エミュー)」と観光客



取組の成果

若手の活躍で宿泊者数が増加

電気バス(EV)の運行実験や体験型イベントなどを実施した結果、宿泊者数が増加しただけでなく、これまで少なかった若い層の観光客も増えた。

また、「宇奈月100年会」が宇奈月温泉商店街として今後どのようなアクションを行っていくかを検討している過程で、主に富山県在住の若手女性20名程度を集めた宇奈月100年会女子部が結成され、「宇奈月温泉女子化プロジェクト」が2015年9月にスタートした。

「宇奈月100年会」の案内で宇奈月温泉商店街のメジャースポットや穴場をめぐり、様々な意見交換をしながら温泉商店街の女子化が進められている。その1つの成果として、プロジェクト参加者とともに発案した「食べ歩きグルメ」の商品販売が予定されている。

2015年3月の北陸新幹線の開業によって状況は大きく変わった。多くの旅館・ホテルの宿泊数は前年比130%を超え、商店街も数年ぶりに賑わうことができた。しかしながら、この新幹線開業特需は長続きするわけではなく、先を見据えて早急に課題解決に取り組む必要がある。

2016年2月には「～100年後も幸せな宇奈月温泉であるために～」と題したアクションプランが完成し、若手経営者が中心となって各種団体と協力しながら、北陸新幹線開業を勢いにアクションを起こしていくところである。

実施体制

上記の取組は黒部市、黒部商工会議所、大学、外部シンクタンクなどと連携して実施されている。事業の実施主体は現在も若手経営者であり、宇奈月100年会女子部と連携して、適切かつ継続的に実施する体制が構築されている。

宇奈月100年会女子部との会議



基本データ

所在地	富山県黒部市宇奈月温泉
人口	約4万人(黒部市)
電話/FAX	0765-62-1006
会員数	40名
店舗数	38店舗(最寄品小売店12、飲食店6、サービス店15、その他5)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	観光客(国内)、家族連れ、観光客(海外)

キーパーソンからのコメント

宇奈月100年会
代表幹事 中島 昭彦



100年後も幸せな温泉を目指して

これまでに様々な団体によって提言書や報告書がまとめられてきましたが、実現されたのはほんの僅かで、多くは様々な理由で未完の状態にあります。継続性のない新事業が生まれては消えていく「不連続の連続」の中で、商店街の若手経営者が中心となり、歴史、自然、地理的特徴について議論し、過去の資料も再度見直す中から、「世界有数の山岳温泉エコリゾート」が我々の目指すべき将来像であり、重要なコンセプトであると位置付けました。

必要なのはアクションプラン！

将来像の共有の後には、アクションプランの策定です。日々の仕事に追われる中、納得するまで何度も話し合い、さらに我々の力強い味方である「女子化プロジェクト」参加者の意見を踏まえ、現実的で緊急性の高いプロジェクトとして、「お客様がまた来たくなる楽しいまち歩き空間の実現」、「空き店舗対策やまちなか案内の充実」、「統一感のある温泉場らしい環境整備」などにまとめました。今後も、これらを確実に実行し、PDCAなど問題解決の体制を整えながら進めていきます。

商店街概要

宇奈月温泉商店街は、黒部川電源開発のために開かれた黒部峡谷トロッコ電車の始発駅に位置し、様々な物資を供給するためのターミナル的な役割を果たし、電気事業に従事する人々の癒しの温泉地として発展した。トロッコ電車の一般利用開始後は、全国からの観光客に親しまれる温泉街として発展してきた。近年は台湾や韓国をはじめ諸外国からの観光客が増加している。2015年3月14日には北陸新幹線が開通し、全国で初めて「温泉」の文言を使用した「黒部宇奈月温泉駅」ができたことから、新幹線駅に近い温泉地として大勢の観光客で賑わっている。